

雜載

たり。○註 此一刀にて多くの人を助けしとぞ、此事世上にてほめけるが、其名をいふ人なかりしを、今年まで四十年、其人をしらざりしに、今年の晩春、幽篁菴の席上、話此事におよび、おのれが見たる所を語りしに、御主人五久松助殿曰、一刀をふりしは、南町奉行組同心渡邊小右衛門と云ひし半老の人なりと聞きて、其時にあひて、四十年しらざりしを發明して、耳を新にせり、此人なくんば、なほいく人か溺死せん、無量の善根といふべし。

〔明良洪範續篇十五〕毛利元就常ニ申サレシハ、智慮萬人ニ勝レ、天下ノ治亂、世ノ盛衰ヲ心ニ懸ル者ハ、生涯ニ眞ノ朋友ハ一人モ有ベカラズ、千年ノ前後ニ誠ノ朋友ハ有ベシ、是等ノ人一時ニ生レナバ、己ヲ害スルカ、又我ニ害セラル、カノ二ツ也、若二人志ヲ同シテ、世ヲ治メンニ於テハ、四海太平、萬民安堵ト稱スル世成ベシト、酒宴ナドアリテ、機嫌好キ折柄ハ、柱ニモタレテ空ヲ詠メ乍ラ、毎度此事ヲ語ラレケル、癖ノ様ニ有シト也。

〔常山紀談十八〕或人本多忠勝に、思慮ある人功名をとげ候か、思慮なき人功名をとげ候かと問ふ、思慮なき人も、思慮ある人も功名するなり、思慮ある人の功名は、士卒を下知し大きな功名をとぐる物なり、思慮なき人は、鎗一本の功名にて、大なる事はなしと答へられけり。

〔護園談餘四〕欺ムカレジ、又カレジト、智恵ノ鞞ヲハヅシテ、人ノ肺腑ヲ窺フ者ハ、人恐レテ親マズ、其害極メテ大也、論語ニ詐ヲ逆ヘズ、信ナラザルヲ臆ラズ、抑又先覺ル者は賢歟トアリ、又カレマジト思フ心故、眞實ナル人ヲモ、僞リハセヌカト、無キコトヲ迎ヘテ疑ヒヌ、又人ヲ疑フ心故、我が辭ヲモ、人モ信ゼザルカト、臆リテ、初ヨリ誓言ダテナドシテ、クリ言ヲ云人アリ、總ジテ人ノ心ヲ云ヌ先キニ覺リテ、合點スル様ナル、猿智慧ノ人ヲ賢者トスルハ、末世ノ風俗下劣ノ至リ也、君子ノ智ハ、鄧ノ子産ノ様ニ有タキコト也、子産ニ生ル魚ヲ贈ル者アリ、校人ニ命ジテ池ニ放シムルニ、其人カタマシキ者ニテ、ヤガテ陰カニ煮テ食シヌ、サテ子産カノ魚ヲ放チケルニヤト問ケレ